ZEH 推進協議会　太陽光発電委員会（第 3 回）議事録

日時：平成 30 年 8 月 21 日（火）15:00～17:00
場所：経済産業省　別館 1 階
議事録記入者：パナソニック（株）高橋

議事次第

1. 開会
2. 委員長挨拶（西川委員長）
   ・エネルギーイノベーション ジャパン 2018（マイドームおおさか）の
   8 月 28 日（火）スマートエネルギーセミナー第 2 部で、宮古島のＶＰＰや
   ブロックチェーンの講演があるので、参加可能な方はぜひ聴講して頂きたい。
3. 新規委員紹介・挨拶
   国際航業株式会社・土屋様よりご挨拶
   「新事業で、ＰＶ、蓄電池、新電力のシミュレーションに取り組んでいます」
4. 前回議事の確認

5. 議事
   （ア）　サステナブル先導的モデル事業ＬＣＣＭ補助採択の情報共有（小山代表理事）
   ・先週段階で、67 件 750 戸が採択された。（枠取りがされた）
   ※エコワークス株式会社様も 20 戸の採択が決定
   ・平成 30 年度内の着手が条件で、11 月には進捗に関する報告を求められる。
   ・第 1 回で想定を上回る応募があったため、今年度の第 2 回はない。
   来年度予算がつくことを期待している。
   ・ヘーベルハウスの展示場で、ＬＣＣＭ 125 万円の「のぼり」があり、初めて
   ハウスメーカーでＰＲしているのを見た。

   （イ）　ＺＥＨ協セミナーの案内・情報共有（小山代表理事）
   ・ＺＥＨ協会員向けセミナーを、名古屋、大阪、福岡の順で開催してきたが、
   8 月 23 日の東京が最終回。
   ・ＺＥＨ＋＆ＬＣＣＭ住宅視察研修会も 9 月 13 日に第 2 回を開催する。
   前回の第 1 回は先導的なビルダー20 社が参加されたが、今回も 10 名を
   超えるお申込みを既に頂いている。
   ・ＬＣＣＭ住宅補助金は、来年度も期待されるので、ＺＥＨ＋４ｋＷパネルの
   マーケティングに取り組んでもらいたい。

（ウ）　ＺＥＨ協 長期経済メリットシミュレーションの進捗状況（小山代表理事）

・ビルダーの社内研修用資料として、テキストの形でリリース。
ＺＥＨ研修テキスト（県別）購入申込書で購入受付。
ＺＥＨの長期経済メリットを、住宅ローンも合わせて説明することが大切。
テキストでは、アフターＦＩＴ11 年目以降は、11 円/ｋＷｈの経済メリットを有すると仮定して試算している。
ＳＩＩがＨＰで公開しているＺＥＨの県別発電量で試算している。
その他の試算条件も含めて、固めの試算になっていると認識している。
県別のテキストにて、ビルダー様に提供したい。
本テキストを、ビルダー様社内の社員研修資料として活用してもらって、社員が腑に落ちるまで理解、納得してもらいたい。
わが社（エコワークス）では、お客様の 10 人のうち 1 人しか、このような説明を行っていないが、社員がこうした説明をできるまでのスキルを持つことが大切と考えている。

テキストに関する意見交換

・固めな試算のため、もう少し甘めな試算でも良いように感じられる。
35 年の住宅ローンが多く、35 年の試算だと、もっとメリットが見せられるのでは？（共和様）
→メーカーのモジュール出力保証の 25 年で試算するようにした。
施主様とは 20 年、30 年のお付き合いになるので、ＺＥＨ協としてはこのくらい固めの試算で良いのではと考えている。（小山代表理事）
・本テキストにより、大変勉強になった。（ソーラーフロンティア様）
・固めの試算になっていて良いと思う。（長州産業様）
・Ｐ.Ｖ.ソーラーハウス協会は、蓄電池の普及を見据えて、ハイブリッドＰＣＳ、ＺＥＨ＋、太陽光発電の自家消費提案を行ってもらうようすすめている。
ビルダー社長様には、ご自宅にハイブリッドＰＣＳを設置して、展示場にして、光熱費データのビフォー・アフターを取って、ご提案に活用してくださいと、話をしている。（Ｐ.Ｖ.ソーラーハウス協会様）、

（エ）　ＪＰＥＡへ「住宅用」太陽光発電販促資料の情報共有（小山代表理事）

・ＪＰＥＡは産業用の太陽光発電所の簡易チェックシートを公開しているが、「住宅版」があっても良いと考えている。
住宅用太陽光発電システムのメンテナンスをどのタイミングで、どのように行なっていくべきか、明確になっていないことに問題意識を持っている。
ＺＥＨ協として、各メーカーと一緒に、住宅用太陽光発電システムのメンテナンス内容を明確にし、これを推奨していければと考えている。

・住宅用太陽光発電システムのメンテナンスについて
施主様にお願いできるのは、モニターの発電量チェックくらい。
ＰＶメーカーはメンテナンス業務をやっていないし、やれないと思う。
（京セラが過去、1 年目、3 年目、7 年目の有償メンテナンスを行なっていたが、
現在は形骸化してしまっている模様）
メンテナンス項目としては、パワコンの点検（電圧、電流）、モジュールガラス面の汚れの点検ぐらいだろうか。（長州産業様）

・架台に対する架台メーカーの点検がどうなっているのかも目を向けなければならない。
ＪＩＳ基準は、より強度な設置にしなさいとなっていて、2 点固定が 3 点固定になった場合、コストアップにつながることになる。（Ｐ.V.ソーラーハウス協会様）

・次回、メーカー各社には、各社のメンテナンスに対する考え方、資料提供を宿題とさせて頂きたい。（西川委員長）
ＪＰＥＡの保守・点検ガイドラインも参考にする。

（オ）　一条工務店太陽光発電販促資料の情報共有
・60 年間の長期メリット訴求に驚いている。（小山代表理事）
・自社で保証すれば良いというスタンスではないか。（住宅みちしるべ様）

ＬＣＣＭ住宅、ＺＥＨの普及には、太陽光発電が長く使えることが大切。
単に価格だけではなく、太陽光発電の寿命、長期保証、長期経済性について本委員会で議論していきたい。（西川委員長）

・環境ビジネスのアンケートでは、ＰＶ設置のネックは住宅ローンの上限額があげられており、価格も重要と考えている。（ソーラーフロンティア様）
・メーカーの立場として、長期保証はあって当たり前、付加価値として認めてもらえない、ユーザーメリットとして伝わりにくい現状があり、悩ましい。
（三菱電機様）
・太陽光発電システムの長期保証、長期安全性に対する第３者認証である、「ＺＥＨ太陽光マーク」というものがあったら良いのかも。（西川委員長）
・モジュール寿命は 25 年、3,000 時間が限界なのかと思う。
価格がネックなら、いくらなら良いのか？
価格がネックなら、モジュールだけでなく、パワコンの価格も下がらなければならない。（長州産業様）

・エコワークスでは、住宅ローンの上限額がネックになるのは、施主様の 5%～10%くらい。実際には借入限度額一杯の方はさほど多くなく、長期経済メリットの訴求が不十分なために、施主様のお気持ちとして設定した借入限度額を超えられないケースが多い。ＺＥＨビルダーが施主様に対し、長期経済メリットを説明できていないことが課題と考えている。（小山代表理事）

（カ） 太陽光発電の定期報告に関するお知らせについて（小山代表理事）

・7 月 23 日に資源エネルギー庁のホームページで、ＦＩＴ制度の認定を受けた発電事業者、設備設置者に対する定期報告に関するお知らせ（注意喚起）が出たが、ほとんどのＺＥＨビルダーに情報が届いていない。
こうした情報の周知について、メーカーにお願いしたい。
また、ＳＩＩのメルマガを活用して、こうした情報発信ができないものか。
→ＳＩＩのメルマガに対して、資源エネルギー庁の新エネ課は関わっていない。、
新エネ課の業務も非常にタイトになっていて難しい。
（資源エネルギー庁　省エネルギー課　山名係長）

（ク）ＺＥＨ協ビルダー会員に対するアンケートの企画（荒川事務局長）

・今回頂いたアンケート案を分類すると、6 つのカテゴリーに分けられるので、これら 6 つのカテゴリーでアンケート企画を作りたい。

① ＰＶ知識、施工、制度について
② メーカーの選択について
③ ビルダーのＰＶに対する意識について
④ コスト　シミュレーションについて
⑤ 販売手法、提案手法について
⑥ ＰＶに対する課題について

その他報告

Ｐ.Ｖ.ソーラーハウス協会　南野様より

・壁面発電量のデータ共有について、まだ事業計画認定がおりていない状況で、発電できていない。公開できる時期がきたら公開させて頂きたい。

次回開催日：　2018 年 10 月 31 日（水）10 時～12 時

次回開催場所；　経済産業省 もしくは パナソニック（株）汐留ビル